One Million Apologies to Mother Earth

120万個の団子投入イベントを実施

8月8日は「世界EM団子の日」に!

【ダンゴ投入の風景】
メイン会場にも2000人を超える人々が集合し、投入を行いました。
手前の青い服の人物がペナン州首相リム・グアン・エン氏 です。

「東洋の真珠」をEMで環境浄化

マレー半島西側に位置するペナン州は、16世紀にポルトガル船が来航し、ヨーロッパ列強による植民地貿易の拠点となった場所。中華系、マレー系、インド系民族のほか、西洋人やアラブ人などが行き交ったその街並みは、今も植民地時代の面影を残しています。世界遺産に登録された歴史的建物も多くあり、「東洋の真珠」「グルメ天国」と形容される観光地として人々を魅了しています。

東南アジアの自由貿易の拠点の一つとして発展したペナン州は、貿易業を中心に多くの外国資本の企業も進出し、マレーシア有数の経済地域となっています。そのため、近年では工業化に伴う工場からの廃水や、埋め立て、また飲食店や住宅地からの生活雑排水により、河川や海岸は極度に汚染され、地元住民はもとより、ペナン州政府も観光都市ペナンの景観や名声が下がることを非常に危惧しています。

ペナン州在住のPGI・EM（ペナン政府による自発的環境管理機構）代表・スー・リー・チョウ氏も、こうした地元の環境汚染に強い危惧を抱いている一人です。ビジネス界から引退したスー氏は、2007年頃からEMの環境浄化能力に着目。マレーシアのEM製造販売会社JAMOF社（代表：澤田哲也氏）と連携し、地元民間企業やホテルの協力を取り付け、EM活性液やEM団子を使った環境浄化活動に取り組んできました。州内を流れるケリアン（Kelian）川においては、十数年以上かけて堆積した大量の汚泥がEMによって3ヶ月間で消失。また、ホテル周辺の水域環境も改善されるなど、人々が関心を寄せる事例が報告されました。

その結果、ペナン州政府もEMを使った環境浄化活動に興味を持ちはじめ、ペナン州を代表するガーニー湾や主要河川等、汚染された水域環境をEMで浄化するキャンペーンが州ぐるみで実施されることになったのです。

メイン会場となったガーニー湾

ボランティアも楽しく団子づくりに参加。次第に賛同の輪が広がり、当初は難しいと思われていた100万個が、予想をうわまわる120万個になりました。

ケリアン川でのEM投入前と投入後。見た目にも違いはあきらかです。

120万個のEM団子を州全体で一斉投入

2009年8月8日には「"One Million Apologies to Mother Earth"～母なる地球への100万回の謝罪」と題し、120万個のEM団子投入イベントが開催されました。このイベントにはペナン州政府をはじめ、さまざまなビジネス団体や学校、福祉施設なども積極的に参加。わずか2ヶ月の準備期間で、予定数以上の120万個ものEM団子を作ることに成功し、メイン会場および州の各地で1万8000人の人々が、地元の河川や海にEM団子を同時投入しました。

メイン会場のイベントでは、ペナン州首相や州政府高官の挨拶、開催趣旨の説明の後、用意された参加者が一斉にEM団子を投入。比嘉照夫教授（EM開発者・名桜大学教授）は、ペナン州知事とともに、毎年8月8日を「世界EM団子の日」とすることを宣言しました。ちなみに数字の8は、ペナン州に多く住む中華系の人々にとって「末広がりの発展」を意味する縁起のよい数字とのことです。文字通り、このイベントは多くの人々から賛同を得て、意義深い運動に発展しています。

EMによる海岸や河川浄化の反響は大きく、新聞には毎週必ずEMに関する記事が掲載され、人々の関心はますます高くなっています。EMによる環境浄化活動に取り組む関係者は、「今後も毎年8月8日に同様のイベントを行い、2年以内にペナン州だけではなく、マレーシア全土でEMを使った環境浄化を展開していきます」と意欲を見せています。

毎年8月8日は「世界EM団子の日」に!交流を深める比嘉照夫教授とスー氏。